



公益社団法人こども環境学会 2013 年度 会員総会・社員総会等資料

2013 年 4 月 27 日 (土) 17:30-18:30 会員総会
2013 年 4 月 28 日 (日) 正午-13:00 社員総会
会場：東海大学 高輪キャンパス

議事予定

1. 開会宣言
2. 定足数の確認、議事録署名人の選任 (28 日社員総会のみ)
3. 代表理事 および 会長 あいさつ
4. 議案
 - 1号議案 2012 年度事業報告
 - 2号議案 2012 年度決算報告
 - 3号議案 2013 年度学会役員選任等について
 - 4号議案 2013 年度事業計画
 - 5号議案 2013 年度収支予算
5. その他
6. 閉会宣言

(28 日の社員総会 議事の流れ)

法人の理事会・・・定時社員総会に付議すべき事項の決定

↓

定時社員総会 (学会理事会)・事業報告と決算の承認、学会役員 (理事と監事) の選任
監査報告

(事業計画と収支予算は前年度 2 月に法人理事会で承認済)

↓

終 了

1号議案

2012年度（平成24年度）事業報告

2013年4月 公益社団法人こども環境学会

2012年度（2012年4月1日より、2013年3月31日まで）に以下のような活動を実施しました。

①（公1）教育・啓蒙事業

A 大会の開催

2012年（平成23年）4月20日（金）～22日（日）、仙台国際センターほかにおいて、「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」をテーマとして、2012年大会（仙台）を開催した。子どもの参画による、被災地のこどもたちを含む約750人が参加し、こどもにやさしいまちの再生をめざして、子どもの成育環境の視点に立った東日本大震災からの復興のあり方などが議論され、以下のような提言がなされた。

1. 一人のアイデアからはじまる
2. 子どもの役割（意見を言う） 大人の役割（子どもの声を聴く）
3. 計画から実行へ
4. これまで育まれてきた地域資源を見出し、環境価値を高める
5. たくましく生き抜く力をもつ
6. 子どもが「今」を生きる時間を大切にする

B セミナー、シンポジウムの開催

こども環境に関わる教育、啓蒙のためにセミナー、シンポジウム等を行った。主催事業として以下の事業を開催した。

第1回こども環境学会 関西・東海・北陸合同セミナー
2012年9月15日（土）京都工芸繊維大学

共催事業として以下の事業を開催した。

連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る・24学会からの発信」第5回
「大震災を契機に地域・まちづくりを考える」2012年6月21日（木）日本学術会議講堂
シンポジウム「ドイツの工房」と「子どもにやさしいまち」

2012年7月25日（水）品川ユニセフハウス、共催：（公財）日本ユニセフ協会
こどもの参画・信頼できる大人とこどもの居場所」公開講座（千葉市）

2012年9月22日（土）、23日（日）千葉市中央コミュニティーセンター8階
日本学術会議主催 学術フォーラム「巨大災害から生命と国土を護る・30学会からの発信」

2012年11月29日（木）日本学術会議講堂

第5回こども・若者のカフォーラム（千葉市）2013年3月17日（日）千葉市子ども交流館
後援事業として以下の行事を開催した。

シンポジウム「こども・若者の参画による復興まちづくり」

2012年7月27日（水）仙台市青年文化センター、主催：こどもの笑顔元気P
こどもがつくるまち 全国主催者サミット'12 in 千葉

2012年10月8日（月・祝）千葉県現代産業科学館

C 広報活動

本会の活動に関する学会誌3回を発行した。発行部数 1回につき約1,500部。

「2012年大会（仙台）こどもの参画—こどもに優しいまちづくり」（CN-21）2012.04

「こども環境と祭り」（CN-22）2012.08 2012年大会（仙台）報告など

「こども環境と保育制度」（CN-23）2012.12 東日本大震災復興支援活動報告など

ウェブ・サイトの管理、メールマガジンの発行を行った。

メールマガジンの登録者約 1,500 名。

D 東日本大震災復興支援活動

「コンテナ砂場プロジェクト」

2012年7月31日(火) 福島学院大学附属幼稚園にコンテナ砂場を寄贈。

放射線影響への不安により、屋外遊びの時間が少なくなっている福島県の子供たちが健やかに育つことができる遊びの環境づくりを推進するため、福島県と共催で、保育所などでの「子どもの育ちと遊び」助言および研修会を開催した。

「子どもの育ちと遊びアドバイス」

2012年12月19日(水)-20日(木)、13日(水)-14日(木)

「子どもの育ちと遊び」研修会 2013年3月7日(木) コラッセふくしま

2013年2月14日(木) 福島県と公益社団法人こども環境学会は、こどものより良い成育環境づくりとこどもを生み育てやすい環境づくりを推進するため、包括連携協定を締結した。

東日本大震災の復興支援事業につき、マスコミ等への積極的な情報発信を行った。

② (公2) 研究・評価事業

こども環境に関する研究活動、評価を行った。

設置されている研究会

こども住環境研究会、こみち研(こどもとコミュニティのための道研究会)、園庭・幼児教育等研究会、遊具環境研究会、青年会、東海こども環境研究会、こども環境研究会関西、先生のための学校環境研究会、こども芸術活動研究会、北陸こども環境研究会、あそびをせむとやうまれけむ研究会

③ (公3) 資格認定、顕彰事業

A こども環境アドバイザー資格の認定を行う。

こども環境の知識、経験、ノウハウ等を持つ者に対して本会独自の資格を設け、認定した。

第6回こども環境アドバイザー資格講習会 2013年3月8日(金)～10日(日)開講。

資格認定参加者は会員46名(新規受講23名、再受講23名)、認定者6名(2013年度中の認定予定者15名)。

B こども環境学会賞の公募

こども環境の発展に寄与する優れた(1)論文・著作、(2)デザイン、(3)活動に対し専門家による選考委員会の審査を経て顕彰した。

論文著作賞1件、論文著作奨励賞2件、デザイン賞3件、デザイン奨励賞2件、活動賞1件、活動奨励賞2件、合計11件。

以上

こども環境学会 2012 年大会（仙台） 2012 年 4 月 20 日（金）～22 日（日） 報 告 書

平成 24 年 5 月 11 日
公益社団法人こども環境学会

【1】概要

- タイトル：こども環境学会 2012 年大会（仙台）
- 大会テーマ：「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」
- 期日：平成 23 年 4 月 20 日（金）～22 日（日）
- 会場：仙台国際センター（〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地）ほか

■大会主旨・目的：

「こども環境学会」は学問の領域を超えて、こどもを取り巻く環境＝「こどもの環境」の問題に関心や係わりのある研究者や実践者が集い、共に研究し、提言をし、実践してゆくなかで、こどもの成育に寄与する環境科学を確立し、こどものためのよりよい環境を実現することを目的としている。

2011 年（東京）大会「こどもの生活を支える」は、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響で中止とし、4 月に緊急支援集会を開催し、「東日本大震災支援にかかる行動計画」を策定し、子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生を目指して、学会としての復興支援活動を行ってきました。

9 年目を迎える 2012 年度には、この 1 年間の東日本大震災被災地に対する復興支援活動を総括する意味も含めて、大会およびシンポジウムを仙台市で開催いたしました。テーマを「復興再生：子ども参画による子どもに優しいまちづくり」としました。子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生をめざして、子どもの成育環境の視点に立った東日本大震災からの復興のあり方を考えることを目的と掲げました。

■内容：

【4 月 20 日（金）】

エクスカージョン

被災地見学ツアー①：被災地の子どもの現場見学ツアー

被災地見学ツアー②：被災地の建築見学ツアー（仮設住宅など）

子どもの現場見学ツアー：仙台市の児童館、子育て支援センターなど

【4 月 21 日（土）】

開会式、オープニングセレモニー

国際シンポジウム①

・パネルディスカッション「子どもの参画による被災地復興の可能性」

特別分科会：「子ども未来人サミット ―アクションプラン―」

分科会：「被災地の文化を生かす子どものまちづくり」

ワークショップ：「東北の民舞WS（太鼓・横笛・踊り体験）」

子ども参加のワークショップ：「私のお店バ＊ザール」from せんだい・こどものまち」

ポスターセッション、総会／学会賞授賞式、交流会

【4 月 22 日（日）】

分科会：「子どもにやさしい復興計画のあり方とその課題」。「ワークショップの意義を考える」、「復興に向けた教育からこどもたちの未来を考える」、「デザインで支える子どもたちの震災復興」、「被災地で見えた、遊び場づくりの意義」、「被災地の子どもの遊び環境の現状」、「建築と子どもたちワークショップ」、「東北の子どもたちの現場から見た子育て環境」、「歴史や景観の継承をこどもたちの手で」

ワークショップ：「齋正弘さんの宮城県美術館探検ワークショップ」、「フィリピン PETA 演劇ワークショップ」

子ども参加のワークショップ：「西公園プレーパーク」

ポスターセッション、学会賞受賞者記念講演会、表彰式・閉会式

■主催：公益社団法人こども環境学会、こども環境学会 2012 年大会（仙台）実行委員会（委員長：新田新一郎）

■共催：仙台市、仙台市子ども会連合会、子どもの笑顔元気プロジェクト

■後援：（順不同）

内閣府、国土交通省、文部科学省、環境省、厚生労働省、日本学術会議、建築研究所、科学技術振興機構、日本ユニセフ協会、日本ユネスコ協会連盟、日本こども NPO センター、IPA 日本支部、日本建築学会、日本環境教育学会、日本都市計画学会、日本造園学会、日本発達心理学会、日本保育学会、日本子ども社会学会、人間・環境学会、日本感性工学会、国際交通安全学会、日本小児保健協会、聖徳大学、チャイルドライン支援センター、日本公園緑地協会、公園緑地管理財団、都市緑化基金、都市緑化技術開発機構、日本建築家協会、都市計画コンサルタント協会、日本造園建設業協会、日本公園施設業協会、全国建設室内工事業協会（以上）

※公益財団法人 仙台観光コンベンション協会 より補助金をいただいております。

■参加費等

大会参加費

- 正会員、団体会員 : 5,000 円 (当日参加は、5,500 円)
- 学生会員、一般学生 : 3,000 円 (当日参加は、3,500 円)
- 一般 (仙台市民以外) : 6,000 円 (当日参加は、6,500 円)
- 仙台市民、障害者、こども (高校生以下) : 無料 (但し資料代別途)

エクスカッション参加費

- ①3,000 円 および、②2,000 円

■参加者数

- 全参加者数 : 755 名
- 登録参加者数 : 513 名、その他スタッフ+ボランティアなど : 242 名 (大人 172 名、子ども : 70 名)
- 正会員、団体会員 : 114 名、学生 : 47 名、関係団体など : 112 名、
- 一般 : 36 名、子ども : 4 名
- 仙台市民 : 200 名 (大人 109 名、子ども 91 名)

【会場風景】



国際シンポジウム



特別分科会-子ども未来人サミット



『優秀ポスター発表賞』受賞者 (報告)

織田 (優秀ポスター発表賞審査委員長)

今大会における優秀ポスター発表賞は、22 名(2 名欠)の理事審査員からなる審査委員会で以下の通り 6 点を決定し、大会最終日に表彰しました。

科学的、数学的視点を引き出す玩具作りワークショップ実践 - 「カオス」と「振り子」の原理を組み合わせた玩具作り-	渋谷寿ほか
ごっこ遊び遊具「まち遊びキット」の導入による社会的相互作用の評価	佐藤朝美ほか
歴史的建造物を題材とした児童と地域をつなぐデザイン教育の有効性と課題	馬場たまきほか
中山間地域における児童が関わった人に対する印象の特質 - 児童の施設外活動よりみた生活空間イメージの分析と課題に関する研究その 3-	青木一郎ほか
保護者による小学生児童の生活環境評価	千代章一郎ほか
新潟県 Y 保育園における新園舎の設計プロセスと園児、保育士、保護者の参加手法 について	近藤ふみほか

2012年こども環境学会大会（仙台）
「復興再生：こどもの参画—こどもにやさしいまちづくり—」
大会提言

2012年5月

こども環境学会2012年大会開催を終えて6つの提言をまとめました。いずれも全体シンポジウムや各分科会などで話され、議論された事柄であることはもとより、大会テーマである「復興再生—こどもにやさしいまちづくり—」へ向けて、まっすぐに突き進むためのロードマップになる内容であると思っています。被災地は道も建物もそこに暮らす子どもたちの暮らしもズタズタに引き裂かれてしまいました。この提言を頼りに少しでもより良い方向へ進むことを願ってやみません。

大会実行委員長 新田新一郎

1. 一人のアイデアからはじまる

（自分で手を挙げることから連携へ）

英国での荒廃した地域の問題を考えた一人の女性が手を挙げたことから連携したまちづくりにつながったという大会基調講演(Helen Woolley)の話と、宮城県から始まった中高生ジュニアリーダーのモットーの「自発的に」とが重なりました。震災直後の避難活動、避難生活において中高生が自分たちも被災したのにボランティア活動への活躍が目立ったのは日頃の活動で誰かが言い出すと、「そうだろう」という仲間が居るからです。周りの空気ばかり気にして、最初から諦めて何もしないよりも、考えたことを言う、それがいいアイデアだと思う者が仲間になり、動きになります。それはジュニアリーダーには慣れたことかも知れませんが、他の子どもたちにもそんな自発的な動きが広がってほしいと思います。そして子どもだけでなく、子どもたちの言い分にそうだと思う大人も自発的に子どもたちと連携して、子どもたちの夢を実現することに動いてほしいと願っています。

2 子どもの役割（意見を言う） 大人の役割（子どもの声を聴く）

多くの大切なものを奪った自然の猛威の前に、人間の力の無力さを感じた子どもたちはしなやかな感性で自然と共生・共存していこうとしています。10歳で子どもが被災した場合10年後に復興の「かたち」が見えてきた時は、子どもは成人に達しています。子どもたちは「声なき未来世代」ではなく、大人が子どもの声（意見）を聴いてこなかっただけです。子どもたちは地域の特性を活かした生業が子どもたちの命をつなぎ、地域の方たちとのきずなを深めてきたことを生活知（暗黙知）としてしっかり理解しています。震災復興には、未来への希望を語れるように、子どもたちが素直に意見をいえる場と子どもコミッショナー（子ども代理人）を設置して、子どもたちの声を聴くのが大人の役割です。

3. 計画から実行へ

どんなに立派な計画を立てたとしても実行が伴わない計画は、それこそ絵にかいた餅になってしまいます。ともすると計画を立てた段階で安心してしまいそこから何も進まない現状が多々見られます。計画を立てることが目的ではなく、どんな小さな事柄でも計画に基づき具体的に実行してはじめて意味があるのです。また、計画したことと実行したことにズレが生じていないか計画を実行しながら絶えずフィードバックすることが大切です。しかし逆に実行してみたとき、そもそも計画したことが間違っていたと気づいたときには、計画を変更する柔軟性も大切です。すべては、「何を求めてどんな形で何に役立てようとするのか」という明確なゴールへ向かって試行錯誤しながら柔軟に対応して実行していく必要があります。

4. これまで育まれてきた地域資源を見出し、環境価値を高める

復興まちづくりはゼロからのスタートですので、合意形成のスピードが求められる一方で、課題が複雑で意見や立場も非常に多様なため、目標の明確化が重要です。地域で育まれた資源を見出し、地域の環境価値を被災前よりも高めていくことが、『こどもにやさしい復興まちづくり』を進める上での大きな目標になると考えます。子どもたちが参画することで、親や周囲の大人たちと一緒にあって、地域の自然や人あるいは行事や場所等という地域資源について学び、社会体験を重ねて共有化していくことが可能となります。子どもたちは活動を通じて、地域に育てられたという想いや自分の地域での役割を自覚し、ひいてはそれが地域力を高め、地域の環境価値を持続的に発展させていく原動力となっていくと思われまます。復興まちづくりへの子どもたちの参画の最も重要な意義がそこにあると思われまます。

5. たくましく生き抜く力をもつ

災害の後、子どもたちは現状を理解するあまりに、悲しさや苦しさ、つらさを表現しにくい状況になっています。安心し、思いきり自身の感情を表現できる場が必要です。この子どもたちをしっかりと受け止める大人がネットワーク化し、社会全体で支えていく体制づくりがなされなくてはなりません。自立という言葉がかえって孤立化を招く今、ひととひとがつながる中で、それぞれの持ち味を発揮しながら支え合うことが真の自立なのだとも大人も子どもも理解し合い、お互いにたくましく生き抜く力をつけていくことが望まれます。

6. 子どもが「今」を生きる時間を大切にす

子どもにとって「今」の時間が大切です。子どもには時間は待つてはくれません。「今」のことが未来の大切な知恵となります。子どもは「今」の感性で多くのことを獲得します。どんな苦境にあろうとも、子どもは「今」遊ばなくてはなりません。子どもは「今」学ばなくてはなりません。次の「今」は前の「今」とは違っています。「今」の時間はあっという間に過ぎ去っていきます。ですから、大人は、子どもが「今」を生きる時間を大切に、子どもの「今」の環境を整えることを先延ばしにはしてはなりません。

2号議案

2012年度（平成24年度） 収支報告（決算書）案

3号議案

公益社団法人こども環境学会 2013年度社員（学会理事）選挙 選挙結果報告

2013年2月23日
2013年度社員（理事）選挙管理委員会
委員長：井上寿

こども環境学会 2013年度社員（学会理事）選挙結果について以下にご報告いたします。

2012年度末で任期満了となる社員：改選社員数は、10名です。

織田 正昭、河原 啓二、小澤 紀美子、佐久間 治、汐見 稔幸、
島田 隆道、中山 豊、新田 新一郎、福岡 孝純、松本 直司
(以上10名、50音順)

2013年度社員選挙の公示 資料により、公示および立候補者受付を2013年1月28日（月）に開始し、立候補登録を2月18日（月）（消印有効）に締め切りました。下記の12名が社員（学会理事）候補として立候補されました。

2月18日（月）消印有効での立候補者は以下の10名です。

(50音順、敬称略)

【立候補者】10名

織田 正昭	(東京大学 非常勤教員)
小澤 紀美子	(東京学芸大学 名誉教授)
汐見 稔幸	(白梅学園大学 学長・教授)
島田 隆道	(愛知医療学院短期大学 教授)
高木 真人	(京都工芸繊維大学 准教授)
中山 豊	(こども環境学会 事務局長)
新田 新一郎	(アトリエ自遊楽校、プランニング開)
福岡 孝純	(法政大学 教授)
松本 直司	(名古屋工業大学大学院 教授)
三木 祐子	(東京大学大学院医学系研究科 客員研究員)

上記のとおり、改選社員数とり候補登録者数が同数であることから、2013年度社員選挙は、投票を行わずに社員を選出することを決定いたしました。

尚、社員は学会理事に就任していただきます。

(2013年2月22日 2013年度社員（理事）選挙管理委員会 決定)

2013年度社員選挙は、投票を行わずに社員（学会理事）を選出することについて、第10回理事会に報告しました。

(2013年2月23日 2012年度第10回理事会 報告済み)

《2013年度社員（理事）選挙管理委員会》

委員長：井上寿、副委員長：仙田満、高橋勝、

委員：神谷明宏、木下勇、木村歩美、谷本都栄、玉田雅己、富樫豊、宮本照嗣、吉永真理

【2013 年度役員の選任】（赤字下線は、今回改選役員、黒字は、前回改選役員）

会 長：小澤 紀美子（東京学芸大学 名誉教授） 再任

副会長：織田 正昭（東京大学 非常勤教員） 再任

副会長：汐見 稔幸（白梅学園大学 学長・教授） 再任

副会長：高橋 勝（帝京大学大学院 教授）

副会長：福岡 孝純（法政大学 教授） 再任

理事長：仙田 満（東京工業大学 名誉教授）

専務理事：中山 豊（こども環境学会 事務局長） 再任

理 事：井上 寿（環境デザイン研究所 研究主任）

理 事：神谷 明宏（聖徳大学 准教授）

理 事：木下 勇（千葉大学大学院 教授）

理 事：木村 歩美（篠原学園専門学校 専任講師）

理 事：島田 隆道（愛知医療学院短期大学 教授） 再任

理 事：高木 真人（京都工芸繊維大学 准教授） 新任

理 事：谷本 都栄（帝京大学 冲永総合研究所 助教）

理 事：玉田 雅己（会社員、NPO 代表）

理 事：富樫 豊（北陸こども環境研究会 代表）

理 事：新田 新一郎（アトリエ自遊楽校、プランニング開 代表） 再任

理 事：松本 直司（名古屋工業大学大学院 教授） 再任

理 事：三木 祐子（東京大学医学教育国際協力研究センター 客員研究員） 新任

理 事：宮本 照嗣（市民参加まちづくりパートナー）

理 事：吉永 真理（昭和薬科大学 教授）

以上 21 名、役職および 50 音順

監事：宇久田 進治（宇久田会計事務所 所長）

監事：桑原 淳司（日本大学 教授） 再任

監事：住田 正樹（放送大学 教授） 再任

以上 3 名、50 音順

上記のとおり 2013 年度(平成 25 年度)役員候補者を指名しますのでその選任につき承認をお願いいたします。

【新任評議員】（退任される理事）

理 事：河原 啓二（姫路市 医監兼生活審議監）

理 事：佐久間 治（九州工業大学大学院 教授）

第4号議案

2013年度（平成25年度） 事業計画書 （※参考資料 2月理事会にて承認済）

公益社団法人こども環境学会

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

①（公1）教育・啓蒙事業

A 大会の開催 4月に開催する。テーマ「こどものコミュニティー力ーこどものつながる力、つなぐ力」

シンポジウム、講演の実施、研究論文等の発表、分科会、ワークショップなどを行う。

東日本大震災（以下「大震災」という。）復興支援に関する内容も主要テーマのひとつとする。

（復興プラン作品展、こども参画のワークショップ、海外研究者の招聘、被災地の復興現場視察報告等）

B セミナー、シンポジウムの開催

こども環境に関わる教育、啓蒙のためにセミナー、シンポジウム等を行う。大震災復興支援への連続シンポジウムを開催する。

こども環境学セミナーの開催 年2回 春と秋に開催。

セミナーやシンポジウムの開催 こども環境に関するセミナー、シンポジウムを随時開催。

大震災の被災地復興支援（こどものための街づくり、環境整備等のプラン策定や行政への提言）を重点的に実施する。

C 広報活動

本会の活動に関する学会誌の発行を年3回行う。発行部数 1回につき約1,500部 会員に配布及び一般の希望者に販売する。大会、セミナー、震災シンポジウム等の広報活動を行う。

ウェブ・サイトの管理、メールマガジンの発行を行う。メールマガジンの登録者約1,500名。

大震災の復興支援事業につき、積極的に情報を発信し、新聞、雑誌等へのマスコミに記事を掲載依頼する。

D 東日本大震災復興支援活動

こどもの視点に立った復興プランの提案、策定やこれらに対するこども参画の仕組みづくり、遊びの環境等こどもの成育環境の整備推進などの復興支援活動を行う。

②（公2）研究・評価事業

こども環境に関する研究活動、評価を行う。研究は各研究会もしくは個人ごとに行う。

研究会の例

園庭・幼児教育等研究会、こみち研（こどもとコミュニティのための道研究会）、こども住環境研究会、こどものあそび場のリスク研究会、遊具環境研究会、こどものための小学校の使われ方研究会、先生のための学校環境研究会、こども芸術活動研究会、青年会、

その他 別のテーマを設け、また同一テーマであっても地域別に研究会を組織することがある。

東日本大震災の被災地におけるこどもの遊び場の安全、環境等についての研究、評価活動を行う。

③（公3）資格認定、顕彰事業

A こども環境アドバイザー資格の認定を行う。

こども環境の知識、経験、ノウハウ等を持つ者に対して本会独自の資格を設け、認定する。

資格認定参加者は会員40名程度の予定。

資格認定は平成26年3月に開催予定。認定委員会を設け、講習会、検定の実施、選考及び認定者に対する認定証の発行を行う。

B こども環境学会賞の公募

こども環境の発展に寄与する優れた（1）論文・著作、（2）デザイン、（3）活動に対して専門家による選考委員会の審査を経て顕彰を行う。顕彰予定 各部門3名程度。平成26年3月に審査のうえ、発表する。

以上

第 5 号議案

2013 年度（平成 25 年度）収支予算（※参考資料 2 月理事会にて承認済）